

ビデオナービズネットとは個人規模で映像関係を業務としている事業者及びそのことに関わっている者の組織です。

公式WEB <http://www.videoner-biznet.com>

📷 8月定例会のご案内

「質疑応答」、「研修旅行」

質疑応答になります。質問を持ち寄って大いに盛り上がっていきましょう。

研修旅行幹事が私脇田に決定しましたが、8月の定例会欠席となります。この定例会まである程度固めておきたいと思いますので、みなさまもご協力お願いいたします。

次回定例会は

日時 2019年8月8日（木）17時～19時

場所 日暮里サニーホール 第3会議室

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里5-50-5

ホテルラングウッド5階 03-3807-3211

JR・京成日暮里駅より徒歩5分

開始時間をテスト的に変更しておりますので
お間違えのないようご注意ください！

👥 7月定例会のご報告

「光ディスク勉強会」

講師に酒井健男さんをお迎えして、DVD、BDなどの光ディスクに関する勉強会を行いました。お客様に納品したメディアが、「再生できない」、「止まってしまう」などの理由で困ったときの解決策や、そもそもトラブルを極力起こさないための方法などについて教えていただきました。

「業務用DVD-Rの市場状況」、「業務用光ディスクの身元確認」、「光ディスクと記録ドライブの相性」、「デジタルデータエラー確認の重要性」、「光ディスクの記録速度」と丁寧な説明をしていただきました。

- ①マスター作成用のドライブ
- ②メディア
- ③デュプリケーター
- ④記録速度

以上の4点の適切な運用によって、エラーは極力防ぐことができるとのことでした。

酒井さんからは「メディア問題などでお困りの会員さんは遠慮なくお問合せください」とのことです。

お問い合わせ先

クオンプラス株式会社・酒井健男さん

電話 080-3702-2463

Eメール info@qonplus.co.jp

以上敬称略

文責：脇田



講師酒井さん、久しぶりの顔出し谷口さん

✍️ 会員コラム

高橋さん「西湘のビデオ屋稼業」

吉岡さん「よっしーのお手伝い日記」

野上さん「ビデオマンの挑戦（8月号）」

が続きます！

（文責各筆者）

西湘のビデオ屋稼業

2019.8月 高橋 昌一

(含むことあり：個人的、感覚的話し)

●7月例年通り、お泊り保育の撮影を2園終えた。今年は長雨の影響を受け、両園とも雨天計画にて実施。雨天計画は室内中心になってくるので、先生もバリエーションを付けるのが、晴れ計画よりはかなり大変になってくる。それは撮影側も同じ事で、一見似たシーンやカットが多くなることになってしまうので、自然な感じを保ちつつ色合いや味付けに変化を付けながら撮影するように心がける。なお、その室内だと、広々とした屋外よりも写真屋さんとは撮影中一緒になる機会も必然多くなってくる。「目線や笑顔」のリクエスト声が耳障りな写真さんと出くわした時(いるんだなあ…声がデカいのが)は撮影軸をあえてずらす。そうする気持ちや余裕もようやく出てきたこの頃。

そしていつも、お泊り保育の場合はすっかり「先生とは一緒のチーム感(いわゆる身内感)」で撮影している。つまり「先生もビデオ屋さんもお互い頑張ろうね」となってくる。おなじ二日間をともにするのだからその方が何かといいにきまっている。お互いに。

にしても疲れを知らぬ園児のパワーはとにかくすごい、のは毎回の実感。(※実は高橋にとって幼稚園さん、保育園さんは密かなパワースポットでもあるんです)

●今月号会報の報告にある通り、7月定例会では講師酒井さんを招いてDVD・BD関連の勉強会を開催した。冒頭検査機器でのディスクチェック結果を見たりして勉強会はスタート。内容も「今さら聞けないDVDの話」というよりは思いもしない初耳も多かったようで、会員の皆さんの当方の予想を越えた反応には、おおむね好評の証か。また酒井さんの聞きやすいトークには業界でのキャリアの長さも感じる。1度では勉強しきれないので、せっかくですから続編で第3弾くらいまではやろうかと思っています。

なお、取引先業者になる酒井さんには「自社取扱い製品の説明は最後の最後にしてください」とお願いし、快諾いただいていた。

実はこの話の本題はここからで、仕事柄購入する機材も高価ゆえ、業者側からの「売らんがため」の、いわゆる都合のいい話ばかりには辟易することも多い。そこでここ2~3年からは機会があれば「都合の悪い話」も一つの大事な情報として提供してもらいたいと考え始めた。実際には、客の当方が機材購入先の業者と長年つきあっているうちに「ここぞと思う瞬間」に一点集中して距離を詰めにかかり、相手の中に入り込んでいく。このとき一番大切なことは「相手を利用する」と爪の先ほどでもけっして思わないこと。こうして培った関係はそんなには多くはないが、やがてその数がもし片手程にでもなればかなりの大きな財産となるはず。もちろん今回の講師はその指の中の本一本になっているのです。

よっしーのお手伝い日記(9) セミナー

アソシネット株式会社 吉岡

野上さんから電話が来た。明日、空いてますか？とのこと。どうしたのか聞いてみると、明日、セミナーの撮影があって、その応援に来てほしいとのことだった。

急に決まったとも思えないので、きっと、悩んで悩んで、なかなか決断できなかったのではないかと思った。

手短に内容と場所と時間を聞く。

野上さんは、音の録音を気にしていた。以前も同様のセミナーを撮影したらしいが、カメラマイクの音では不満だったようだ。たしかに、ガンマイクだと、遠い感じが出ちゃったりするし、講師がマイクを使うなら、直接 その音をもらった方が良いに決まっている。

どういう場所なのか わからないこともあって、①無線ピンマイク ②内蔵マイク付き ICレコーダ ZOOM H6 ③キャノンコード ④キャノン端子オス・オスの変換コード ⑤アナログ端子とキャノン端子と変換コード。ICレコーダ以外は2セットずつ用意する。これなら、どんなシチュエーションでも対応できるだろう。

あと、使わないかもしれないが、AX700 と三脚も持っていくことにする。バッテリーの充電と、カメラと ICレコーダの設定の確認。あらかじめ電池を入れておけるものは 入れておく。

2019年7月8日 八王子

12:00 に八王子に待ち合わせ。13:00 にならないと会場に入れないらしい。それまで、昼食を済ます。14:30 講演なので、設置はゆっくりできない。

昼食中、野上さんは、かなり緊張しているようだった。やることや 責任や なんやかんやが、目まぐるしく頭の中を駆け巡っているのだろう。自分は、雑用全般、滞りないように見渡さなければ。

会場に入り、野上さんは、ソニーの業務用カメラ(Z150)と、小型の民生機、パナソニックの一眼(GH4)を用意した。

早速、録音の準備に取りかかる。ホールのスタッフに話して、マイクの音をもらえることになった。ICレコーダを設置。ZOOM の H6 は、-12db 下げてバックアップ録音ができる。テストの段階で、音割れするか しないか までレベルを上げておく。リミッターも掛かっているなので、そのままでもほとんど音割れをしたことがないが、もし音割れをしたら、バックアップを使う、という感じだ。

ここのホールのスタッフさんは、すごく丁寧で感じが良かった。

Z150 をメインカメラとして、客席の最後列から狙う。これは私が担当。ガンマイクの音もチェックしてみたが、悪い感じではなかった。

GH4 と、私が持参した AX700 で、上手の前の方から野上さんがステージと客席を撮ることにした。

講演が開始された。

ステージでは、スライドを大きく投影している。講師はステージ上を動きながら説明をしていた。

撮影は、基本的に3パターン。

- ① スライドが変わるタイミングや、スライドの説明では、スライドが映るように、文字も読めるくらいに引いて撮る。
- ② 通常は、講師の動きが分かるように、フルショットかもう少し広めに撮影。
- ③ 身振り手振りが入るときは、ウエストショットぐらいに寄る。

撮影は無事に終了。

野上さんが使ってるザハトラの三脚は使いやすい。というか、メッチャ使いやすい。いいなー、ザハトラ。リーベックのリモコンも使いやすかったなー。

後片付けだが「手早く片せるように」を最近 取り組んでいる。中身がすぐわかるように、小物を入れる袋のほとんどは、百均で買ったメッシュの袋(メーカーごとに3色で分けている)。アダプタなども、軽く束ねてメッシュの袋へ。3m くらいのケーブルは、8 の字巻をした後で、縛らずに袋へそのまま入れる。入れにくい袋はNGだ。

以前は、ケーブル等を束ねるのに、マジックテープを多用していたが、意外と取り外しに時間がかかるのと、他のものにくっ付いて煩わしいので、今はほとんど使っていない。束ねるものは、ゴムで引っ掛けるようにしている。

ちょっとは早く片付くようになったと思う。

ビデオマンの挑戦 (8月号)

八王子映像ビデオマン : Isomitsu Nogami 2019.7.26

プロフェッショナル

今月はいよいよプロフェッショナルな領域に入ってきたことを自覚する。令和元年7月3日と8日撮影を無事終えることができた。私の分野は公益性のある団体との関わりが性に合う。15年間理容美容という生活に関わる団体(理美容センター)でみっちり公益という分野での仕事をした経験があるからだ。管轄は厚生省で後に労働省と合体して厚生労働省となった。はっきり言って縦割りの職場である。他の課の事には一切口を出してはいけないと先輩から言われ自分に与えられた仕事を100%成しえれば9時・5時の生活を行えた。お蔭さまで誰にも文句を言われずに定年まで勤め上げることが出来たし無事に息子の大学3年間とその後の教員資格を得る資金も(半分は自分でも考えて教育ローンを借りたようだ)。

地方公共団体も似たり寄ったりの公益性を担っている。サービス残業などは無いし、不当労働なども縁がなく個人を大切にされた職場である。最初の部所は「学績課」であった。通信教育生のレポートを添削する仕事であった。後に通信教育課と名前が変わったが通信教育ではこのレポート添削が大変な作業であった。全国から毎日レポートが布袋ぬのぶくろに入って届く。その採点をする、二人体制で一人が採点をし、片方がレポートを正しくされたかをチェックする。間違っていると付箋を貼られ突き返される。修正して終了となるのだがレポートは通信生にとっては大切な履修履歴となる。60点以下だと不合格となり再度レポートを送って60点を取るまで再レポートを送り続ける。これらの作業は非常に神経質な作業であった。というのは、その人の人生がかかっているようで・・・。正解用紙とレポートを交互に、にらめっこしての手作業での添削だった。後に機械化(スキャナー)されたが最初の頃は集中力のある人材でなければまたソロバンが出来ないとだめな仕事でもあった。(正誤を正しく早く認識できるスキル)

ビデオの編集

ビデオを撮って編集する作業も大体このレポート添削と同じである。撮った映像の出来・不出来は撮る側(いいづらいけど、被写体)が重要である。昔、写真に「修正」と言って目の辺りを(目尻をきりっと)させると、美人になると私の一人っきりの姉は言っていた(見合い写真)ビデオでも同じような修正は出来る。コントラストをもっと明るくするなんてことは簡単に出来るし拡大縮小も自由に出来る。しかし普通の人にインタビューした場合は編集に時間をかけてそれなりのレベルに引き立てるのが編集の重要な仕事だ。はっきり言って時間がかかるが完成品を手にする人の笑顔を思いながら作業をする。自分の作品ではお金を掛けられないので家内に登場を願い、モデルになってもらったりナレーターをやってもらったりしています。見てくれる人が手にして喜ぶ事を頭の片隅に入れながら・・・。

失敗できないのが仕事

ビデオって今では携帯でも美しく撮れる時代です。孫の姿を動画で送ってくれるので可愛くてたまりません。ビデオは確かに身近になってきました。しかし結婚式や講演などを携帯で撮るのは個人が楽しむレベルであればOKですが、それを記録として残すものには到底考えられません。お金を払いプロの人に撮ってもらおうそれはどうしてでしょうか? 普通の方はプロの方は失敗しないからだと思っているからです。プロだって失敗することはありますがそのミスを最小限に留められる知恵やリスクを分散する方法を心得ている。私が入っている「日本映像制作者協会」ビズネットでの例会はそれら失敗の例を「最初の重要課題」として聞かされるのです。年一度開催される研修旅行ではとんでもない失敗を堂々と発表されるのです。失敗は成功の元と言われますが、責任を果たすことが出来なくなる事を回避するのがプロです。誰も撮影日の前日には酒は飲まないようです。私も先日の撮影で同僚の掛け声「自分のカメラがスイッチ」が入っているかどうか(最低限の確認作業)お蔭で気分を落ち着けることが出来ました。最初は初心者マークです。正直言ってドキドキですが完成したビデオを見せてビックリさせる事が出来ればカメラマン冥利につきます。ビズネットの皆様へ感謝する気持ちでいっぱい最近では月一の例会が楽しみになっている。

To be continued 野上五十満